

2021年テーマ

収量500kg/10a、1等米比率80%を目指して!

今年の梅雨入りは5月16日で平年より21日早くなりました。5月の中旬以降概ね高温で推移しましたが、日照不足の影響でやや徒長ぎみで分けつが緩やかとなっています。ガス障害や生育不良はあまり目立っていませんが、ガスワキ状態で分けつが極端に少ないときは、田面に亀裂が入る程度のしっかりとした中干しを行ってください。

日照不足の影響を取り戻すためにも、7月からは健全で活力ある根を維持することが重要です。そのため、間断かんがい等の水管理を始め、穂肥や病虫害防除などおいしい米づくりのために重要な管理に十分注意してください。気象情報に注意しながら生育に応じた適正な管理を心がけましょう。

品種毎の出穂・穂肥の時期は裏面の表を、穂肥の量は下の表を参考にしてください。

コシヒカリは①前期穂肥が出穂前18日（幼穂長約1cm）より早いと倒伏しやすくなります。②後期穂肥が出穂前10日（幼穂長約12cm）より遅れると米の蛋白質が増加し、食味が低下します。穂肥を省くと充実不足による乳白米が増加し、外観・品質が著しく低下するため、適期に施用しましょう。

穂の生長と穂肥時期の目安

(穂肥の役割) — 1回目 粉数の確保 — 2回目 収量向上・粉の充実

穂肥の時期は実際に幼穂を見て判断しましょう

出穂前日数	25日	22日	18日	15日	12日	10日	出穂期
穂肥時期	コシヒカリ		1回目			2回目	
	キヌヒカリ	1回目			2回目		
	京の輝き	1回目			2回目		
	ヒノヒカリ		1回目			2回目	
	新羽二重糯			1回目			2回目

◎穂肥の施肥基準例（10a当たり・プロ484の場合）

品 種 名	中間追肥 (出穂45日前)	穂肥基準		前期穂肥時期・葉色判断基準	
		前期	後期	時期※ ¹	葉色※ ²
コシヒカリ	—	15kg	10kg	出穂18日前	3.5以下で施用
キヌヒカリ	—	15kg	10kg	出穂25日前	4.0以下で施用
京の輝き	—	15kg	10kg	出穂25日前	4.3以下で施用
ヒノヒカリ	7kg	10kg	10kg	出穂22日前	4.0以下で施用
新羽二重糯	—	15kg	10kg	出穂18日前	4.5以下で施用

※¹有機アグレットの場合、前・後期とも4日早めて施用。量はJAにご相談下さい。 ※²葉色が判断基準以上の場合は、適宜減肥して下さい。

水稲出穂予想と施肥時期の目安(稚苗の場合)

中丹地域の平地での出穂目安

○…前期穂肥

●…後期穂肥

□…出穂予想日

植付時期	6月	7月					8月				
		5日	10日	15日	20日	25日	5日	10日	15日	20日	25日
コシヒカリ	5月5日		○		●		□				
	5月10日		○		●		□				
	5月15日			○		●		□			
	5月20日				○		●		□		
	5月25日					○		●		□	
キヌヒカリ	5月15日		○		●		□				
	5月25日			○		●		□			
京の輝き	5月7日		○		●		□				
	5月15日			○		●		□			
	5月25日				○		●		□		
ヒノヒカリ	5月15日					○		●		□	
	5月25日						○		●		□
新羽二重糯	5月15日					○		●		□	

なお、上記の目安は今後の気温・日照条件や地域により若干の変動が予想されます。実際に幼穂を確認しましょう。

熱中症対策

- ①気温の高い時間帯をさけて作業するとともに、休憩をこまめに取りようにしましょう。あわせて、水分もこまめに取りましょう。
- ②帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をしましょう。

くわしくはJA・農業改良普及センターへお問い合わせ下さい。